

菌核病 (Sclerotinia rot)

Sclerotinia sclerotiorum Libert et al



キャベツ結球部に発病。黒い点が菌核。



キャベツの被害状況

発生生態

キャベツでの発生がよく知られていますが、ナスやキュウリなど多くの作物でも認められます。キャベツでは、春と秋に発生します。はじめに下葉がしおれ、その葉柄基部に水浸状の病斑ができ、やがて結球葉まで進展し腐敗を起こします。白い綿毛状の菌糸と、黒いネズミの糞に似た「菌核」をつくります。この菌核が土壌で生存し、胞子を飛散して次年度以降の伝染源となります。

防除対策

常発地での栽培は控える、排水や風通しを良くして過湿にならないようにする、キャベツ結球期に降雨があった後には薬剤を散布する、発病株は菌核が生じる前に速やかに処分する等の対策が重要です。